

令和2年度業務実績評価書において課題とされている事項への 令和3年度対応及び令和4年度計画への反映について

「令和2年度公立大学法人熊本県立大学業務実績評価書」において課題とされている事項について、令和3年度業務実績及び令和4年度計画への反映は以下のとおり。なお、反映状況は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第29条に基づき公表することとする。

（評価の結果の取扱い等）

第29条 地方独立行政法人は、前条第一項の評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させるとともに、毎年度、当該評価の結果の反映状況を公表しなければならない。

	「令和2年度業務実績評価書」において課題とされている事項	令和3年度業務運営の改善状況	令和4年度計画への反映状況
1	<p>（1）「大学の教育研究等の質の向上」</p> <p>①教育</p> <p>（イ）大学院入試について、收容定員充足率では、文学研究科とアドミニストレーション研究科の博士前期課程が、認証評価機関の評価基準を下回っている。一方で、環境共生学研究科とアドミニストレーション研究科の博士後期課程では、持ち直しの動きも見られる。</p> <p>各研究科では、それぞれの特色に応じて、ターゲットを絞った説明会やPRを、オンラインや関係団体との連携も交えて展開し、遠隔による入試も実施されている。</p> <p>こうした取組みによって、前年度（2019年度）に創設された社会人特別選抜（国際協力枠）で初となる2名の合格者が誕生するなど、新たな志願者確保への途が開けつつある。</p> <p>志願者の確保に向けた地道で様々な取組みが続けられていると認められるが、入学者数の改善には至っておらず、今後の大学院教育のあり方等に関する検討も道半ばにあり、本項目は「課題」としたい。</p>	<p>【計画番号(3)】</p> <p>大学院委員会において、教育改革の一環として、科目等履修生規程を一部改訂し、大学院生の教職に係る学部開講科目の受講（科目等履修料を徴しない）を可能とした。教職課程の科目以外も対象とすることについては引き続き検討することとした。</p> <p>また、広報活動の一環として3月末にスタディサプリの情報更新（本年度2回目）を行った。</p> <p>各研究科における具体的な取組は以下のとおり。</p> <p>＜文学研究科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業対応について『履修の手引』に記載し、同様の記載を大学院募集ポスターに印刷して西日本の大学に発送する等、社会人に配慮した学修形態の提供を周知した。 ・社会情勢やニーズを踏まえた適正な定員のあり方について、文学部英語英米文学科のカリキュラム改革と連動させて議論を始めた。 ・大学院生による研究紹介と研究発表（R3.11.26、12.4、R4.1.7、1.21、2.18）、修士論文と博士論文の中間発表（R3.11.2、7.27）、大学院進学説明会（R3.7.30）、博士論文公開審査（R4.2.12）、修士論文要旨発表会（R4.2.28）を全てオンラインで行った。その結果、多くのイベントで学部生の参加があり、中間発表には地元高校生や他大学教員の参加、進学説明会には遠隔地（沖縄）からの参加を得 	<p>【計画番号(3)】</p> <p>大学院への内部進学者や社会人などの受入れを促進するため、様々な取組を行う。</p>

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試のオンライン化に先立ち、募集要項の一部変更（外国人留学生特別選抜）を行った。 ・日本語能力を問わない、海外からの受験を想定し、英語英米文学専攻の入試問題及び授業科目一覧の英語化について検討を始めた。 <p><環境共生学研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科修了者や在籍者による経験談等を内容に含めた大学院説明会を専攻毎に計画し実施した（環境資源学専攻：第1回、R3.6.22、参加者3年生32名、第2回、R4.2.14、参加者4年生10名、3年生13名、2年生13名、1年生8名、居住環境学専攻：R3.7.12、参加者3年生40名、食健康環境学専攻：進学・就学支援セミナー、R3.10.10、参加者3年生40名、2年生39名；キャリア支援セミナー、R4.2.12、2年生41名）。 ・博士前期課程社会人特別選抜（国際協力枠）において、遠隔による入試方法を導入し、今年度2名の入学者を確保した。 ・社会人に対して遠隔授業を積極的に取り入れた。 <p><アドミニストレーション研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際教育交流センターと協力し、国際協力枠による受験者確保のための打ち合わせを大学院担当教員と行い、博士前期課程においての受験生（国際協力枠）1名を確保した。 ・在学生や社会人に対し、修士論文中間報告会（R3.10.30）への参加を呼びかけた。 ・医療センターや看護学校などへアドミニストレーション研究科の募集要項を送り、入学志願者増への取組を行った。 ・研究科委員会において収容定員の抜本的見直しを検討し、博士前期課程の収容定員を40名から24名に、博士後期課程の収容定員を12名から6名へ引き下げ、令和5（2023）年度入学者選抜から適用することを第7回教育研究会議において審議し、決定した（R3.10.11）。 <p><国際教育交流センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報について、高校生・大学生対象の地元雑誌に、社会人特別選抜（国際協力枠）で入学した大学院生2名の紹介とともに、一般選抜（国際協力枠）に係る周知を行った（取材記事）。大学HPに入試情報等を掲載するとともに、JICAに対し、Partnersへの掲載を依頼した。 ・Global Loungeのカフェイベントで、高度グローバル大学院 	
--	--	---	--

		<p>プログラムのPRとJICA協力隊の体験を学ぶことを目的としたイベントを企画した(年間6回のうち、5回を実施済み(R3.7.8、7.15、10.7、11.4、12.2、R4.1.13))。11月のイベントには地元雑誌から取材があり、紹介記事が掲載された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜(国際協力枠)の受験者確保のため、学生との面談やアドミニストレーション研究科及びJICAとの打合せを実施した。 ・大学院委員会において、在学中に国際協力・貢献活動を経験するプログラムについて、現地で大学院生が活動をスムーズに開始するため、JICAとの連携により、派遣職種や派遣国について事前に調整を行うことを依頼することとした(R3.9.29)。JICAにおいて検討いただいた結果、2職種について連携分として実施されることとなり、大学院委員会に報告した(R4.2.18)。 <p>【参考：令和3年度収容定員充足率】</p> <p>文学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：60% ・博士後期課程：58% <p>環境共生学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：45% ・博士後期課程：200% <p>アドミニストレーション研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：38% ・博士後期課程：25% 	
2	<p>(1)「大学の教育研究等の質の向上」</p> <p>④国際交流</p> <p>(ア)海外留学・研修メニューの拡充等について、短期英語研修の単位化や、学生の留学サポートの取組みが実施されている点などでは、年度計画は順調に実施されている。</p> <p>ただ、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生の出国を伴う事業が軒並み頓挫しており、オンライン交流・留学も、大半が1日限りの交流に留まっている。</p> <p>新型コロナウイルスの感染収束時期が未だ不透明である中で、今後の海外留学・研修のあり方等については、さらなる工夫や検討が求められると考えられる。</p> <p>今後の大学における検討の深化を期待して、本項目は「課題」としたい。</p>	<p>【計画番号(28)】</p> <p>ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、R3.6.15に文科省により9ヶ月以上の交換留学に対する支援を再開することが通知されたこと等を受け、本学でも関係者と協議・調整の上、5名の学生を協定校に派遣した(祥明大：R3.8月2名、R4.3月1名、モンタナ州立大学：R3.8月1名、R4.1月1名)。 ・【新】オンラインを活用した留学の支援について、大学後援会と協議を行い、本年度からオンライン留学についても後援会から学生に対し助成されることが決定した(R3.6~)。 ・【新】海外の大学の留学プログラムの内容などの情報収集を行い、学生のプログラム参加の支援などを行うため、米国の非営利教育機関「SAF(スタディ・アブロード・ファウンデーション)※」への加盟について関係委員会において審議し、MoAを締結した(R4.3月)。 	<p>【計画番号(28)】</p> <p>ア. 新型コロナウイルス感染症の拡大が続く場合も、状況改善の可能性を想定し、迅速に対応ができるよう学生の海外留学・研修の実現に備えるとともに、オンラインによる海外留学・研修メニューの拡充を検討する。</p> <p>イ. 英語英米文学科では、海外留学・研修を単位認定するための科目として新設した「Studying Abroad」の対象となるプログラムについて、学生への情報提供を進める。</p>

		<p>※SAF の大学ネットワークに加盟することで、アメリカ等の SAF メンバー大学に学生の派遣が可能になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【新】更に、オンライン留学に係る単位認定について、関係者（共通教育センター長、国際教育委員会委員長、文学部、教務入試課等）と意見交換等を実施した（R3.4～）。文学部英語英米文学科においては、カリキュラム改正の一環として留学の単位化を検討、実施することとした。 ・モンタナ州立大学ビリングス校とオンライン ESL の実施に向けた協議を行ったが（R3.10.27）、先方において対応が難しいということで実現には至らなかった。 ・例年実施していた短期研修に代えて、祥明大とオンラインによる学生交流会を初めて実施し、双方から 49 名の学生が参加し、グループディスカッション等を行った（R3.11.17）。 <p>イ. 英語英米文学科では、留学情報の提供や留学に関する助言、英語力強化の活動を行う Globally Talk をオンラインで毎週 1 回開催した。</p>	
--	--	--	--